

# 高知大学 病院 ニュース

〔編集〕  
高知大学病院ニュース  
編集委員会  
委員長 寺田 典生  
〔発行人〕  
高知大学医学部附属病院  
病院長 横山 彰仁

## 附属病院の経営状況と今後の展望

病院長 横山 彰仁

**病** 院職員の皆さんには日々ご活躍いただき、誠にありがとうございます。ご承知のように、医業は営利を求めないのが原則であります。環境や機器の充実を図るためには、当然のことながら病院の収益が重要です。多くの方々の給与の原資も病院収益であり、皆さんに経営的視点をもっていただくことは大変重要なことだと思います。そこで、本稿では、現在の経営的状況と将来の展望をご説明したいと思います。

**院** 内各部署に固有の事情もあり、細かなことをとやかく申し上げることは僭越でもあり、各部署にお任せせねばならないと考えています。ただ、先般、経営状況説明会においてご説明しましたように、本年度も稼働率や手術数が「昨年度と同等」となるようお願いしたいと思います。それによって、少なくとも今年度は計画を達成できる見通しです。しかしながら、現時点で**病床稼働率**は昨年よりも3~4%低くなっています。たかが1%といっても、医療従事者でいえば十数名分の年給に相当する額(約1億円)になります。各部署で工夫をして、是非とも年度を通じて昨年並みの稼働率を確保いただくよう、切にお願いいたします。

**よ** うやく来春からは、新病棟の稼働と旧病棟の改修が始まります。しかし、旧病棟の改修が始まると、病床数は減少し、西病棟改修時には仮設病床42床を含めても492床となる予定です。したがって、その際の1年ほどは満床でも稼働率が80%ということになります。これを最小限の目減りで乗り切り、着実に借入金を返済していく必要があります。

**く** るしい時期を控えているなか、これからの展望ですが、病床の機能分化・連携を進め、医療提供体制改革を行うために各都道府県が策定する「地域医療ビジョン」というものがあります。各医療機関が病床機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)を県に報告し、それをもとに来年度には県が地域医療構想(ビジョン)を策定することとなっています。

**し** たがって、今後は行政や患者さんの意識変化が促進され、役割に応じて病診連携を大きく推進する方

向となると考えます。本院は高度急性期を担う病院となる見込みであり、高度急性期医療へさらに重点を置く体制を敷く必要があります。本院でも将来的には外来から入院へシフトし、外来負担を軽減し高度急性期患者の入院診療に対応する必要があります。少なくとも現在12%程度にみられる、診察・投薬のみの患者さんは、地域のかかりつけ医で診療していただくことが必要になると考えられます。このことは、併せて本院の外来駐車場不足の解消につながるものと思います。さらに、高知県では少なくとも2020~30年までは、人口の減少にもかかわらず、高齢者総数の増加が見込まれています。高知県の高齢者の受療原因を見ると、循環系(心臓・脳血管障害)、呼吸器系が1、2位であり、それらへの対応を行う必要があります。本院においては特に脳や心臓血管といった循環領域の救急体制の構築が必要と考えます。

**よ** って、高度医療を担うポストを戦略的にそのような救急部門に配置することが必要と考えます。これにより、国として大きく削減予定の7対1看護病床の維持を図ることに寄与すると考えています。本院にとって最大の問題は人員の不足です。特に他大学病院に比べて少ない医師数は本院のアキレス腱となっています。戦略的ポスト設置による外部からの医師の招聘、また救急体制の整備は研修医のニーズにも合致するもので、残留率の向上にも寄与しうると考えます。さらに、改正医療法に基づいた広告戦略も積極的に考える必要があり、この一環として、大学病院をアピールできる本を作成・市販する予定です。また、経営コンサルタントを雇用し、無駄を省き、効率的な経営への助言をいただく予定としています。

**う** けみ(受け身)だけではなく、積極的な仕掛けを展開し、病院のセカンドステージへ皆さんとともに歩みを進めていきたいと思っています。まだまだ道のりは長いですが、病院収益により医療従事者をさらに増加させ、さらなる収益の増加を用いてさらに人員・医療機器の充実を期待できるような、“拡大再生産”システムの構築を通じて、より高度な医療を提供しかつ開発する大学病院を目指していきましょう。

## 職員・学生に対する表彰や、感謝状の授与についての特集

今年度の上半期に高知大学医学部附属病院において表彰された職員・学生についてご紹介いたします。この他にも、医学部附属病院では、表彰・感謝状の授与等について、随時ホームページへの掲載を行っています。

### 内科(内分泌代謝・腎臓) 島村芳子助教が日本腎臓学会 ベストサイテーション賞を受賞

平成26年7月4日、第57回日本腎臓学会学術総会(パシフィコ横浜)において、内科(内分泌代謝・腎臓)島村芳子助教がベストサイテーション賞(Original article)を受賞しました。

この賞は、日本腎臓学会「Clinical and Experimental Nephrology (CEN)」で創刊からこれまでに発表された論文の中で、2013年に最も多く引用されたOriginal article(原著論文)1題のみに授与される大変名誉ある賞です。

この研究は、内分泌代謝・腎臓内科学と病態情報診断学(検査部)と共同で行われたものです。



### 日本区域麻酔学科会 第1回学術集会において 最優秀演題賞を受賞

医学科5年生の岩田英樹さんが日本区域麻酔学会(4月25日、岡山コンベンションセンター)で最優秀演題賞を受賞しました。今回が第一回大会で、急速に適応が拡大している区域麻酔に関して、臨床・疫学、基礎研究まで様々な演題が討論され、全ての口演演題の中から、最も優れた演題として表彰されました。

岩田さんは、麻酔科学・集中治療医学 横山正尚教授の指導のもとリサーチコースとして研究を行い、鎮痛方法の違いが術後認知機能障害に影響を及ぼすかについての研究発表を行いました。授賞式は学術集会の懇親会にて行われ、副賞として、ヨーロッパ区域麻酔学会の参加費が贈られました。

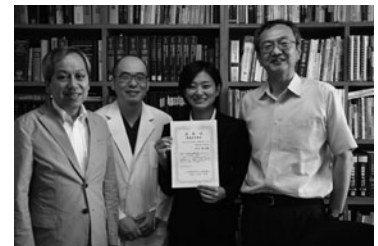


### 日本麻酔科学会 第61回学術集会で 最優秀演題賞を受賞

先端医療学コース・学際的痛み治療研究班の井守聡子さん(医学科4年生)が、平成26年5月15日から17日まで、横浜市で開催された日本麻酔科学会第61回学術集会で最優秀演題賞を受賞しました。

日本麻酔科学会は、会員数約1万2千人を擁する日本でも有数の学会で、年次集会において各部門の演題から、最も優れた演題を最優秀演題賞として選出しています。

井守さんは、医学部2年生から麻酔科学・集中治療医学 横山正尚教授の指導のもと研究を行っており、今回、術後認知機能障害に対するプレガバリンの有効性についての研究発表を行いました。

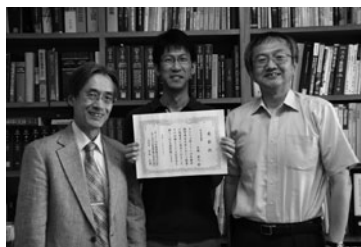


### 第33回医療情報学連合大会において 研究奨励賞を受賞

先端医療学コース・情報医療部門病態推移予測研究班の高橋康大さん(医学科4年生)が、平成25年11月に開催された第33回医療情報学連合大会において行った発表、「診療データベースを用いた*Helicobacter pylori*に対する除菌率の変化と除菌治療に関連する疾患の解析」が研究奨励賞に選ばれ、平成26年6月6日に開催された第18回日本医療情報学会春季学術大会(シンポジウム2014 in 岡山)で表彰されました。

医療情報学連合大会は3000人以上の参加者がある学術集会です。「研究奨励賞」は、300題ほどの演題の中から35歳以下の若手研究者の優れた発表3演題にのみ授与される名誉な賞です。

受賞した発表では、本学医学部の匿名化研究用データベースに30年間蓄積された膨大なデータを用いて、ピロリ菌感染の有無と様々な疾患の罹患率との関連性を網羅的に解析し、従来から知られている消化器系疾患との関連だけではなく、今までピロリ菌との関連性が指摘されていなかった、甲状腺関連疾患や前立腺関連疾患との関連を示唆する結果を得たことを報告しました。



### 高知大学医学部附属病院に 環境省から感謝状が授与されました

7月1日付けで、環境大臣から高知大学医学部附属病院宛てに感謝状が届き、小児保健・環境医学研究センター(エコチル調査高知ユニットセンター)菅沼成文センター長が横山病院長を訪問し、菅沼センター長から横山病院長に感謝状が手渡されました。これは、日本初の大規模出生コホート調査である「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」が、平成26年3月20日に目標参加登録者数である10万人に到達し、同年3月31日に参加登録期間が終了となったことを受け、目標参加登録者数の到達に大きく尽力した協力医療機関400機関に対して送付されたものです。



# 初期臨床研修医紹介 Part 1

今回は25名(医:22名、歯:3名)のうち、12名を紹介します。

卒後臨床研修センター

- ①名前
- ②出身
- ③趣味・特技
- ④高知大学医学部附属病院での研修、ここがいい!!
- ⑤今後の抱負を一言
- ⑥将来の進路や関心のある分野



- ①有馬 直輝(ありま なおき)
- ②香川県綾歌郡綾川町
- ③バレーボール
- ④教育・研究・臨床
- ⑤頑張ります。



- ①黒川 早紀(くろかわ さき)
- ②高知県高知市
- ③ヴァイオリンを弾くこと
- ④指導医の先生方が丁寧に教えてくださってとても勉強になります。
- ⑤高知の医療を支えられるよう、しっかり研修したいと思います。
- ⑥模索中です…



- ①江湊 みのり(えぶちみのり)
- ②高知県高知市
- ③旅行
- ④上級医の先生方が指導熱心で勉強になります。また、大学病院は雑用が多いといわれますが、手技もたくさんやらせてもらえます。
- ⑤少しでも医療に貢献できるようにがんばりたいと思います。



- ①周藤 麻由(しゅうとうまゆ)
- ②高知県高知市
- ③バドミントン、運動
- ④同期が仲良く、相談しやすい
- ⑤ご迷惑をたくさんおかけすると思いますが、精いっぱい頑張りますので、ご指導よろしくお願いします。
- ⑥内科



- ①川西 泰広(かわにし やすひろ)
- ②香川県高松市
- ③お酒を飲んでおいしいものを食べる
- ④at homeなどところ
- ⑤良医になるべく、日々勉強します。
- ⑥外科系



- ①杉浦 健太(すぎうら けんた)
- ②三重県明和町
- ③そろそろ見つけます。
- ④同期・先生が多い。みんな教育熱心
- ⑤素晴らしい研修環境なので、それを生かして、しっかりとした医師になります。
- ⑥全身



- ①久家 直子(くげ なおこ)
- ②高知県南国市
- ③読書
- ④アットホームな雰囲気、先生方が大変熱心に指導して下さいます。
- ⑤患者さんの笑顔がみられるように、日々がんばっていきます。
- ⑥内科系を考えていますが、未定です。



- ①高橋 一平(たかはし いっぺい)
- ②高知県高知市
- ③自転車(を始めたい…)
- ④勝手知ったる母校なのでストレスが少ない。
- ⑤高知の医療を支える一助になるべく頑張ります。
- ⑥悩んでいます…

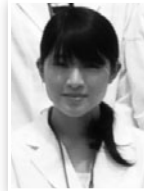
# 初期臨床研修医紹介

卒後臨床研修センター

- ①名前
- ②出身
- ③趣味・特技
- ④高知大学医学部附属病院での研修、ここがいい!!
- ⑤今後の抱負を一言
- ⑥将来の進路や関心のある分野



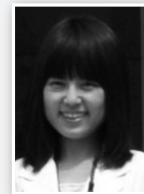
- ①高橋 友香里(たかはし ゆかり)
- ②岡山県岡山市
- ③おやつを食べること
- ④頼もしい同期と素敵な先生
- ⑤優しいお医者さんになれるよう頑張ります。



- ①津田 尚子(つだ ひさこ)
- ②高知県高知市
- ③書道、読書、旅行
- ④研修スケジュールを自分で組み立てられるところが良いと思います。また、教育熱心な先生も多く、日々とても勉強になります。
- ⑤丁寧な仕事を心がけて頑張りたいです。
- ⑥内科を中心に考えていますが、まだ未定です。

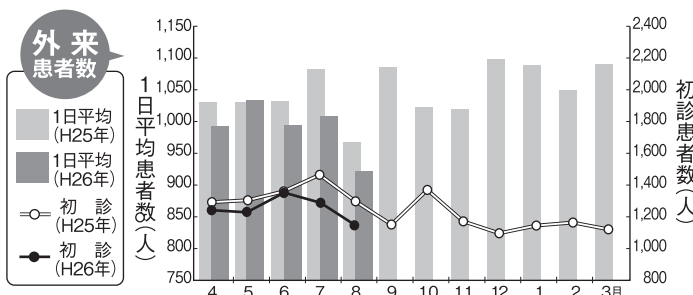


- ①津田 晋(つだ すずむ)
- ②高知県南国市
- ③音楽
- ④知り合いが多い。
- ⑤良い医者になれるようがんばります。
- ⑥外科

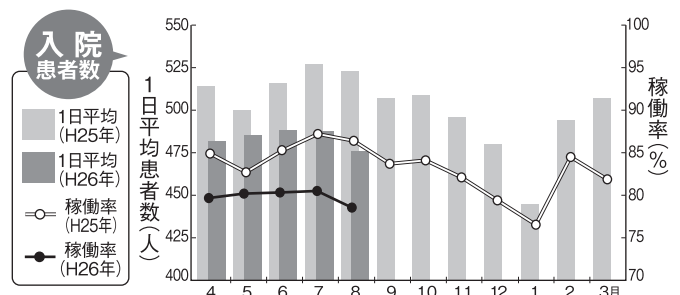


- ①西本 佳代(にしもと かよ)
- ②愛媛県愛南町
- ③旅行、おいしいものを食べる
- ④同期が多くて何でも相談できる。先生方が熱心に教えてくれるところ。
- ⑤毎日笑顔で頑張ります。
- ⑥眼科を考えていますが、まだ未定です。

## 診療状況



7月と8月の1日平均患者数の月変動を見ると昨年と同様の動きであるが患者数は減少。初診も前年同月に比べ減少。



患者数・稼働率ともに4月から連続して前年に比べて減少。8月は前年に比べ患者数で47人、稼働率で7.7%の減少。

## 編集後記

今回は、附属病院の経営状況について横山病院長からご説明いただき、表彰、感謝状を授与された職員、学生の方、そして、将来有望な研修医の先生方をご紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。日々の仕事のほとんどを自分の部署である皮膚科の外来、病棟、医局で行い、あっという間に1日が終わってしまいますが、病院ニュースを読ませていただくと、病院内で様々な立場の方がそれぞれの仕事をされていること、開催されたセミナー、

講習会の内容、新しい職員の方、患者さんの声、そして診療状況など、実際の仕事の中では知ることのできない病院内での数々のことを知ることができます。そして、多くの方々の支えによって高知大学医学部附属病院が機能していることがよくわかります。これからも、病院内を大きな輪で繋いでいくニュース面を作っていけるように、努めたいと思います。どうか沢山のご意見をお寄せください。よろしくお願いいたします。

(文責：中島 喜美子)